

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	早稲田大学
-------	-------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) S	目的は十分に実現された。
(コメント)	
<p>拠点大学の国際化については、「Waseda Vision 150」という長期戦略を立て、総長のリーダーシップの下、全学的な取組として国際化を加速させ、日本人学生の海外派遣が大幅に増加するなど、事業目的は十分に実現された。また、多様性を図るため外国人教員の雇用も順調に進み、教員へのFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動のみならず事務職員にもSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を多様に実施し、英語能力の向上が図られており、国際化の更なる加速が期待できる。</p> <p>英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり学部及び大学院でコースが開設され、多様で優秀な学生を獲得するための入学者選抜制度の見直しなどを実施し、既に500名以上の学生が在籍していることは評価できる。</p> <p>留学生受入のための環境整備については、入学前の留学生を対象とする入試を一元的に扱う国際アドミッションズ・オフィスの整備、国際学生寮の新設、就学中の留学生と日本人学生との交流の促進を目的とする国際コミュニティセンターの整備、学術的なスキル支援を行うライティングセンターによる多文化共生環境の整備や出口としてキャリアセンターによる就職支援等の学内受入体制の整備が進められている。これらの取組は国際化を進める他大学を牽引する取組例として高く評価できる。</p> <p>海外大学共同利用事務所の整備については、ドイツ（ボン）に設置していたヨーロッパセンターを本事業の共同利用事務所として充実させ、事務体制及びTV会議設備の整備や現地におけるネットワーク構築が行われている。渡日前入試の面接会場として活用し、欧州からの留学生増加に結び付けていることは評価できる。他大学との共同利用については、今後の積極的な展開が望まれる。</p> <p>目標の達成状況については、高い目標が設定された状況で、留学生受入数や外国人教員比率が目標を上回るなど概ね目標を達成している。</p> <p>今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、本事業に伴う国際化に向けた貴学の大学改革は我が国の高等教育に一石を投じたと言える。アジアのリーディングユニバーシティの実現のために、留学生受入8,000名、日本人学生全員の海外派遣、入試制度の改革やクォーター制の促進等の国際化施策の高い目標に向けて着実な取組が期待できる。また、国際的評価を高めていくためには質の担保が重要であり、今後、量的拡大とともに質の向上にも注力した取組が望まれる。</p>	